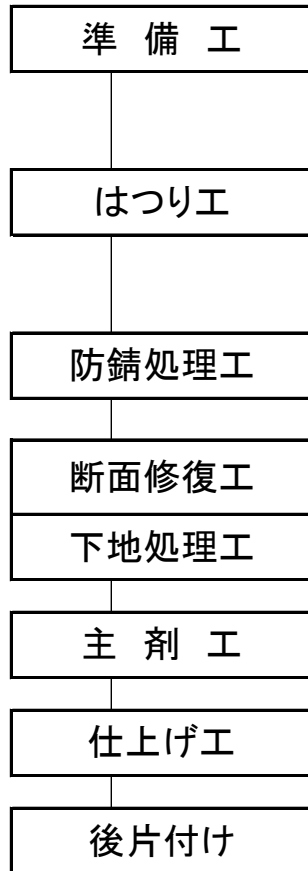


壁高欄補修工の作業手順



内 容	留 意 事 項
作業内容の確認 作業人員の確認 保護具の点検 使用機械、資材、工具の点検	指示書の内容確認 安全ミーティング日報による 作業前にてサンダーの刃の取り付け部の締付け確認を工具にて確認を行う。
壁高欄全体を打音点検を行い、不良個所にマーキングをする。 ハンマードリル、チップパーを使用しコンクリートのはくりひび割れ等の発生部分を除去する。またその他の全面については、サンダーにてけれんを行う。	はつりがらが本線または、橋梁下へ落下しない様に十分注意する。 作業に合った保護具を使用する。 サンダーの刃の交換をする場合は、交換後に締付の状態の確認を行う。
はつりが終わり鉄筋が露出したら、ワイヤーブラシ、サンダーを使用し鉄筋に付着している、錆を除去する。その後防錆塗料の塗布を行う。	刷毛にて十分な量を塗布する。
欠損断面を断面修復材を使って元の断面まで埋め戻し復旧を行う。 この時、施行箇所以外の場所は、きちんとマスキング養生を行う。	厚みが厚い場合には2～3回に分けて復旧を行う。
断面修復が完了した後、プライマー、不陸調整材の塗布を刷毛で行う。	均一な量になるべく薄く塗布する。
中塗り材を均一にゴム鏝にて塗布を行う。	ある程度の厚みが必要となって来るので熟練した技術が必要になる。
仕上げ材を、均一に、刷毛、ローラーにて2回塗布を行う。	刷毛むらの出ないようになるべく均一に塗布する。
完成後マスキング等の養生の撤去を行い、足場等も清掃する。 使用した道具、機材、余った材料はどは、トラックに積み込み、最後にほうき等で、清掃を行う。 終礼の実施	使用した道具等は、現場に忘れ物が無いように確認する。 安全ミーティング日報による

注意事項

各作業にあった保護具を使用する。
 はつり、清掃時、の小石等の一般車への飛散には、十分注意を行う。
 施工箇所によっては、安全帯を使用する。
 橋梁下への、はつりかす、塗料の落下には、十分注意をする。
 材料の攪拌については、硬化不良が起きない様に、十分、むらなく攪拌する。
 材料の攪拌場所は、路面が汚れない様にシート等で養生をしてから作業をする。
 移動前に積載物の落下防止対策を実施し、複数人で確認する。
 車両を後退させる際は誘導員と打合せ実施後移動する。